

柏地区新キャンパス候補地について

山崎 敏光 (物理学教室)

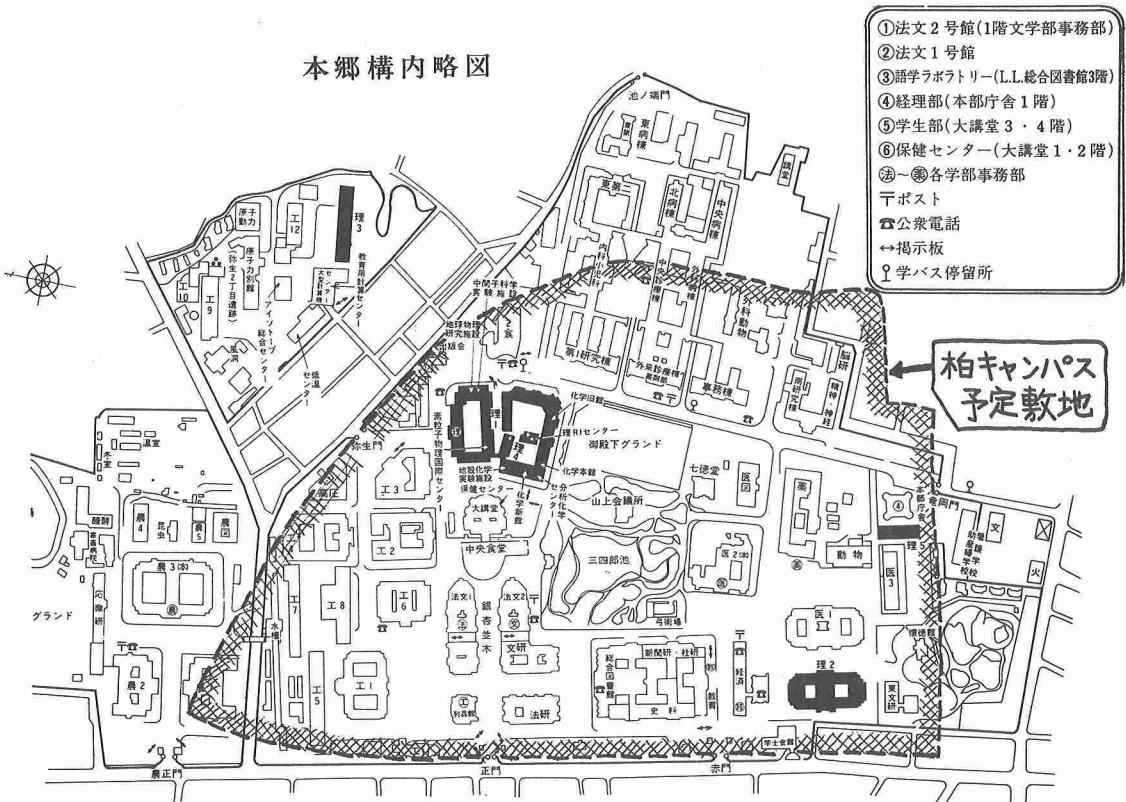
平野前総長の時代から理工系学部・研究所の現状打開と将来の発展のために新キャンパスの候補地が検討されてきた。本年より森総長のもとで、ひきつづきこの問題のつめを行うことになり、東京大学新キャンパス特別委員会が存続している。これまでの検討の結果、柏地区が新キャンパスの適地とされ、取得の可能性も高いとされている。これは、旧米軍通信施設跡地の一部で約40haが東京大学のために予定されている。この土地は平地（やや台地）で最近開通した常盤高速道の柏出口にほぼ接しており、本郷キャンパスから自動車で40～60分のところにある。柏駅からはやや遠いが、将来、常盤新線が建設される予定もあり、本郷キャンパスからの便利さから云って、これだけ

魅力ある候補地は他にないと云えるであろう。その面積を実感していただくために、本郷キャンパスの地図の上ののせてみた。すなわち、浅野地区農学部地区を除く本郷キャンパスのほぼ全部に相当する。

さて、この候補地が果して東京大学の新キャンパスとなるかについては、まだ解決しなければならない問題（たとえば代替地）が残っている。しかももっとも大事なことは、大学としてこのキャンパスを如何に有効につかおうとするかの構想を立てることである。研究所群もさることながら、理学部・工学部がこれにどう臨むかは、さしせまった問題である。

理学部としてはいくつかの考え方がありうる。

本郷構内略図



たとえば、

- a) 本郷キャンパス内は現状に近いまま残し、大型研究施設群を新キャンパスに移す。
- b) 大学院大学のようなものの新キャンパス実現を構想し、研究施設群はそれとの関連で位置づける。

- c) いっそのこと学部教育も含めて新キャンパスに移る。内容、名称、等の改編も考える。

この問題は理学部企画委員会においても議論されているが、近く懇談会を開いて理学部教官の皆さんの御意見をぜひ伺いたいと考えている。

(新キャンパス特別委員会委員)